男女共同参画情報紙

ぱれっと

2019 vol.39

男女共同参画の視点から考える 防災対策

平成23年の東日本大震災や平成28年の熊本地震に続き、平成30年9月には最大震度7の北海道胆振東部地震が発生しました。また、西日本豪雨など記録的な大雨や台風による災害も多発しており、各地に甚大な被害をもたらしています。

首都圏においても、今後首都直下型地震が心配されるなかで、男女共同参画の視点からの防災対策が求められます。

災害時における問題

過去の災害において、多くの避難所では男女のニーズの違いが把握されず、衛生用品や生活必需品が不足し、着替えや授乳ができるスペース、男女別トイレがないなど配慮に欠けた対応となっていました。また、炊き出しや掃除は女性の役割と性別により固定化されやすく、さらに、長引く避難所生活では性的暴力などの問題も起きていました。

このように、災害時には女性が困難な状況に置かれていたことが明らかになりました。災害時になぜ、このようなことが起きていたのでしょうか。

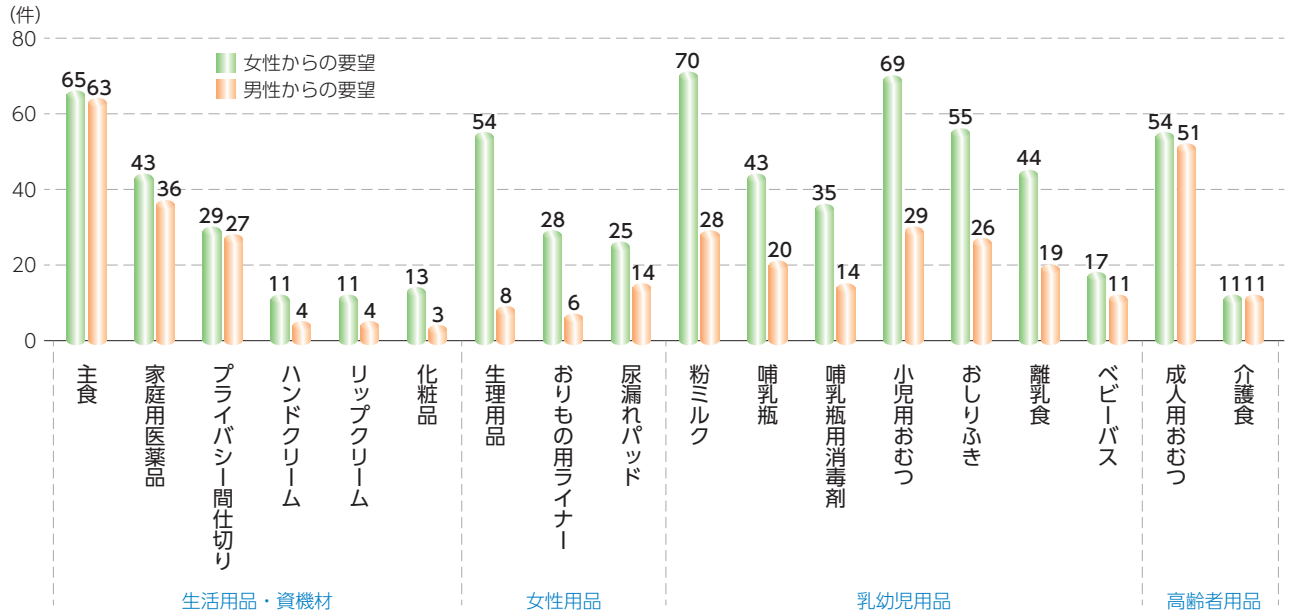
防災にも男女共同参画の視点

防災・災害復興の分野では、国や地方自治体の防災会議、自治会や消防組織への女性の登用が進んでいない状況です。

八王子市においても防災会議に占める女性委員は19%、町会・自治会に占める女性会長は10%、消防団の女性団員は2%となっています。防災や復興に関する政策・方針決定過程への女性の参画を拡大し、男女共同参画の視点を取り入れていくことが重要です。

災害時であっても、女性だけでなく子どもや高齢者、障害者などあらゆる人の人権が尊重されなければなりません。男女共同参画の視点で防災対策を考えることは、誰もが安心して暮らせるまちづくりにつながります。

男性と女性で異なる災害時の支援ニーズ



（備考）1．内閣府「男女共同参画の視点による震災対応状況調査」（平成23年）より作成。
2．調査対象は、被災３県（岩手県・宮城県・福島県）の108地方公共団体の男女共同参画担当。調査時期は、平成23年11月。

※出典　内閣府「平成24年版男女共同参画白書」

多様な視点から考える防災対策

災害時には、平常時の社会の課題がより顕著になります。特に災害発生後の避難所では高齢者や妊産婦、乳幼児、障害者、外国人など多様な人たちが集まります。もしもの時に、命を守るためにはどうしたらいいでしょうか。

日常生活の中でできる備え

◉生活状況にあった備え

単身者、乳幼児や高齢者のいる家庭など、生活状況に応じた防災用品を入れておく非常用バッグを備えておきましょう。

◉避難所まで歩いてみる

幼児や高齢者の避難には時間を要します。自分の住む地域の避難所まで歩いて事前に確認しておきましょう。

◉災害時の連絡方法を決めておく

家族の安否確認の方法を決めておきましょう。単身者は友人や同僚と決めておくと安心です。

◉家事・育児・介護は家族で分担

女性が主に家事や育児・介護を担っていませんか。日ごろから家族みんなで分担していると、災害時にも助け合えます。

◉防災の担い手として参画

災害時には地域の助け合いが不可欠です。女性も普段から学習会や防災訓練などの地域活動に積極的に参加しましょう。

避難所での生活

◉避難所運営

避難者による自主的な運営組織では、女性、男性両方の責任者を置きましょう。また、食事や掃除当番など性別に関わらず出来る作業を分担するようにしましょう。

◉プライバシーの確保

高齢者、妊産婦、乳幼児のいる家族、病気の方など各々の状況に応じて間仕切りをしましょう。また、女性への配慮として授乳室、男女別のトイレ・物干し場・更衣室を設け、生理用品や下着などは女性が配布するようにしましょう。

◉健康への配慮

高齢者、妊産婦、乳幼児の健康に配慮し、感染症予防を始め衛生的な環境対策を行いましょう。

◉みんなで防犯対策

避難所生活でのストレスは、暴力や性的暴力が起きる要因の一つとなります。被害を防ぐため、外出時の周囲への声かけや複数人での行動を心がけましょう。また、夜間の巡回警備の取組も防犯対策になります。

＊＊＊

日頃から災害に備え、また災害発生後の厳しい状況の中で少しでも安全に安心して生活するために、男女共同参画の視点に立って取り組むことが何より大切です。

講座の紹介

（H30.9.6（木）実施）

家族のいのちを守る防災講座

～日用品が防災グッズに大変身～

平成30年9月に、男女共同参画センター主催の防災講座を実施しました。災害への備え方や日用品を防災グッズに活用する方法など、子育て中ならではの防災対策について学習しました。

書籍の紹介

東京くらし防災

（東京都総務局H30年3月発行）

女性の視点からまとめた防災ハンドブックです。日常生活のちょっとした工夫でできる防災対策や避難生活での様々な課題への対処法などが具体的に紹介されています。“いつもの暮らし”を見直して、もしものときに備えましょう。

INTERVIEW 地域で防災に係わり、活躍している女性の声

防災訓練で経験したことは災害時に必ず役立つ。男女共同連携に取り組んでいます。

めじろ台一丁目町会
会長　上　玲子さん

めじろ台一丁目町会では、地域の防災に男女共同参画の視点を取り入れています。訓練時には老若男女全員で「三角巾」の使い方や「アルファ化米」の調理などを実践しました。話し合いでは「重機の扱いは男性、情報収集は女性が向いている」、「災害弱者の安否確認も大事」などの意見も出され、地域住民同士の理解を深めることができました。

また、災害時の避難所では女性リーダーも必要です。女性ならではの相談（医療面）がしやすくなるだけでなく、災害関連死を防ぐためにも、今後はリーダーの育成にも努めていきたいと思います。

いざという時に備えて、地域の方々と学習、話し合いを実施しています。

八王子市赤十字奉仕団
委員長　八木　幸子さん

八王子市赤十字奉仕団は市内12分団約250名の団員が活躍しています。「自分の命は自分で守る」ことを提唱し、「自助・近助・共助」の精神で、地域の防災意識を高めるために避難所マップの作成や町会の避難訓練の実施のほか、いざという時に備えて家族で話し合うことなどを勧めています。

これまで、「我が家は大丈夫」という意識を持つ人も中にはいました。しかし、想定外の災害が多発する中、物の備えだけでなく心の備えも大事です。高齢者や男女を問わず多くの方に参加していただけるよう学習や訓練の機会を広げていきたいです。

誰もが安心して暮らせる社会へ

減災と男女共同参画研修推進センター
共同代表
浅野　幸子

あさの・さちこ
法政大学大学院修士課程修了。阪神・淡路大震災の際、学生ボランティアから国際協力NGOのスタッフとなり復興支援などに従事。2011年、東日本大震災女性支援ネットワークの活動に参加。2014年より後継団体の「減災と男女共同参画研修推進センター」共同代表。各地で防災講演・講座・研修を行うほか、「避難所運営ガイドライン」をはじめ国・自治体の防災政策にも関わる。

災害時にも男女共同参画の視点が求められます

過去の災害から防災対策に男女共同参画や多様性に配慮した視点が求められています。2016年熊本地震でも一定の取り組みは行われましたが、家屋の倒壊等による直接死が50人であるのに対し、避難所生活で命を落とす関連死は200人を超えました。エコノミークラス症候群で入院した女性の人数は男性の3倍以上でした。トイレ環境が悪いと女性や高齢者は水分を控えがちで、血栓ができやすくなることが一因とされ、災害時の安全・衛生・栄養・育児・介護などにおける女性の視点の重要性が改めて突きつけられたと言えましょう。

なぜ男女共同参画の視点が重要かと言えば、第一に「被災者支援の質の向上」があげられます。家庭生活のマネジメントは主に女性が担っている現状において、女性のニーズをいかに的確に把握するかが被災者支援全体の質に大きく影響するからです。

第二に「避難誘導・要配慮者支援」です。現状では育児・介護・看護を担う人や平日昼間の地域人口に女性の割合が高く、実態に即した避難計画の策定や避難誘導に女性の参画が欠かせないからです。また、被災者が直面する困難は性別や年齢、障害の有無、家族構成、経済状況などによって多様です。男女共同参画の視点とともに要配慮者（乳幼児・妊産婦・要介助の高齢者・障害者・外国人）の多種多様なニーズに応じた支援も大切です。

第三に「地域防災活動の活性化」です。急速な高齢化と若い世代の地域組織離れに伴い、地域によっては"老老防災"化が進んでいます。女性や若い世代のリーダー活躍が求められますが、多くの地域組織において少ないのが現状です。働き方やライフスタイル、価値観が多様化する中、組織のあり方や会合の持ち方、訓練方法なども工夫していく必要があります。

では、男女共同参画の視点から地域の防災力を高めていくにはどんなことが必要でしょうか。まずは、地域組織とつながりながら活動する女性を増やしていきましょう。また、男女両方の意識改革も重要です。男性にも発想を変えてもらい、例えば地域の防災訓練やイベントを男女両方が話し合い企画してみる。一緒に取り組むことに男女両方が慣れていくことが大切です。

同時に、女性もリーダーシップをつけていきましょう。地域で女性だけで行う企画を実行してみる。実際に有効だった例として避難所のトイレ・衛生対策訓練があります。避難所生活において衛生と安全に関わるトイレの設置は、全体を見ながら様々な点に配慮しなければならない重要な仕事で、リーダートレーニングになります。さらに、最新の防災食の試食会を兼ねた防災ミーティングなども子育て世代など若い方の参加が見込めた事例です。

みなさんの地域でも様々なアイディアが出てくるはずです。老若男女、障害者、外国人など多様な人材を巻き込んで、男女共同参画の視点から防災対策を積極的に進めていきましょう。

男女共同参画センターの紹介

男女共同参画センターでは、各種講座の開催、女性のための相談、ほっとタイムサービスなどを行っています。

開館時間
月～土曜日　9：00～19：00
日曜日、祝･休日　9：00～17：00
休館日　年末年始（12/29～1/3）、毎月第１火曜日（館内点検日）

ほっとタイムサービス

学習支援・求職支援のための託児サービス（無料）です。
※事前登録必要・要予約
TEL 042-648-2230

女性のための相談

夫婦・家族間の不和・もめ事の悩み、生き方や人間関係、交際相手との悩みなど、女性の人権に関わることについて女性相談員が対応します。

相談専用電話
TEL 042-648-2234
月～土曜日　9：00～19：00
日曜日、祝･休日　9：00～17：00
※年末年始を除く

専門相談　※要予約
女性のための相談、カウンセリング、弁護士相談

「男女が共に生きるまち八王子プラン（第３次）」について

本市は第3次プランに基づき、男女共同参画社会の実現に向けた総合的な取組を行っています。男女共同参画施策の推進について、皆様のご意見を随時受け付けておりますので、ご意見は直接、電話、ファックス、またはEメールで男女共同参画センターへ。

平成29年度 評価報告書の作成
第3次プランに掲げている61取組の進捗状況等を評価した報告書を作成しました。

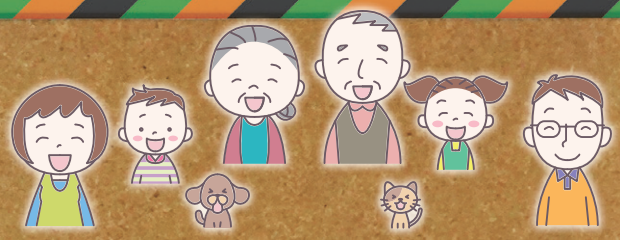
第3次プランの中間見直し
現在、第3次プランの後期5か年に向けての中間見直しを行っています。この計画は、平成31年3月に公表を予定しています。

民間団体によるDV相談窓口　配偶者や恋人からの暴力に悩んでいませんか？

団体名	形式・費用	日　時	連絡先
DVホットライン八王子	電話相談・無料（女性専用）	月曜日　9：00～12：00	TEL 042-626-8258
全国共通DVホットライン	電話相談・無料（女性専用）	月～土曜日　10：00～15：00	TEL 0120-956-080
いっぽの会	女性同士の語り合い・１回200円	第１・３金曜日　13：30～15：30	TEL 090-6338-4391 TEL 090-7408-1372
れんこんの会	女性同士の語り合い・無料	第２土曜日　14：00～16：00 第４木曜日　10：00～12：00	TEL 080-5039-9374

第28回 女と男のいきいきフォーラム八王子

一人の幸せ みんなの幸せ



平成31年2月23日(土) 会場 八王子市クリエイトホール (八王子市東町5-6)

入場無料 託児あり 1歳から就学前のお子さん、要予約（午前／午後）各12名まで

講演会

木久蔵の仕事と子育て これがわたしの二刀流

一部手話通訳あり

家族みんなが楽しく、幸せになるための仕事と子育ての両立について、自身の体験談や父の林家木久扇との思い出など、ユーモアを交えてお話しいただきます。

講師 林家　木久蔵さん(落語家)
時間 14：00～15：30
会場 5階　ホール　定員 170名

1975年東京都生まれ。玉川大学文学部芸術学科卒業後、父親でもある初代・林家木久蔵（現在の林家木久扇）に入門。2007年9月 真打に昇進し、二代目・林家木久蔵を襲名。落語以外にも、テレビ出演や講演など活動の場を広げている。著書『がんばらない子育て』(木久扇との共著）などを出版。

分科会

性同一性障害の当事者が語る困難と共生のためにできること

講師 西野　明樹さん(臨床心理士・心理学博士)
時間 10：00～12：00
会場 11階　第7学習室　定員 24名

幸せ“じゃない”恋愛!?～男女のコミュニケーションの違いから考える～

講師 大山　治顕(ちあき)さん(メンタルケア心理士)
時間 10：00～12：00
会場 10階　第5学習室　定員 20名
対象 大学生及び20歳代の方

団体企画

相互理解で絆を深めよう ～産前産後の夫婦の本音～

講師 山形　祐太さん(八王子市　保育幼稚園課　子ども支援担当)
峰尾　香さん(八王子市　保育幼稚園課　子ども支援担当)
時間 10：00～12：00
会場 6階　レクリエーション室　定員 10組
対象 第一子を出産予定又は1歳未満のお子さんがいる夫婦
企画 八王子産前産後ケアサークルMORIE PARK

知っておくと安心、子どものための社会保険と助成・奨学金制度 ～誕生から国民年金納付開始まで～

講師 櫻井　三樹子さん(特定社会保険労務士)
太矢　香苗さん(ファイナンシャルプランナー)
時間 10：00～12：00　会場 10階　第2学習室　定員 25名
対象 子育て中の方(ご夫婦・親子での受講可)
企画 多摩らいふサポート

多様性を認めるってどんなこと? ～みんなちがってみんないい～

講師 高口　みささん(社会福祉士・精神保健福祉士)
時間 14：00～16：00
会場 10階　第5学習室　定員 25名
企画 マザーリーフ

パパと一緒に両手お絵描き ～ダブルドゥードゥルを体験してみよう～

講師 遠藤　由美子さん
(プレインジムインストラクター・保育士)
※ダブル：両手、ドゥードゥル：落書き
時間 14:00～15:30　会場 5階　展示室　定員 14組
対象 4歳～小学生のお子さんとその父親(または両親)
企画 NPO法人グループあいびー

パネル展

時間 13：30～16：00　会場 5階 ホール

○男女共同参画センター登録団体の紹介
○創価大学学生の活動
○東京純心女子中学1年生の活動ー女性研究ー
○共立女子第二高等学校　高校1年生の活動

お申込み・お問い合わせ

男女共同参画センターまで
TEL：042-648-2230
FAX：042-644-3910
1月15日(火)から申込み先着順で受付開始

八王子市の附属機関等への女性の参画状況

附属機関等とは、市の政策や企画の立案過程において、専門的な知識や市民の皆さんの幅広いご意見を反映させることを目的にした機関・会議です。

本市では附属機関等への女性の参画率の目標を平成30年度までに40％と定めています。29年度の参画率は33・8％で、より一層の取組の強化が必要です。

附属機関等への女性の登用について積極的に働きかけるなど、女性参画の推進に向けて取り組んでいきます。

女性の声を市政に活かすため、女性の登用にご協力ください。

❖女性参画状況推移

年度	附属機関等数	うち女性がいる附属機関等	委員等総数(人)	うち女性数(人)	女性の参画率
27	134	108	2,066	669	32.4%
28	131	105	2,035	669	32.9%
29	133	108	2,030	686	33.8%

男女共同参画情報紙 ぱれっと 2019 vol. 39

◉ご意見・ご感想は男女共同参画センターまでお寄せください
TEL：042-648-2230　FAX：042-644-3910
Mail：b050900@city.hachioji.tokyo.jp

◉発行日　平成31年1月15日　◉編集　男女共同参画都市　八王子市　市民活動推進部男女共同参画課
〒192-0082　八王子市東町5-6　クリエイトホール8階
HP：http://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/shimin/003/004/003/p000031.html